

主 題	建設工事現場の安全パトロールの実施について		
実施日	令和3年7月28日	参加者	・長崎県長崎振興局長崎港湾漁港事務所 ・施工業者 ・長崎労働基準監督署

概 要



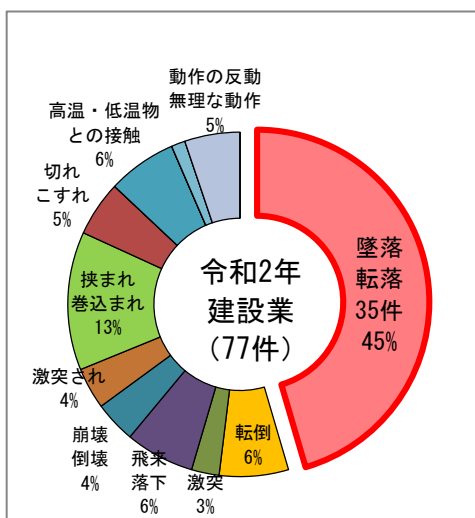
公共工事の安全施工と建設業における労働災害防止を目的とし、長崎県長崎振興局長崎港湾漁港事務所、施工業者及び長崎労働基準監督署は合同で建設現場の安全パトロールを実施しました。

パトロール箇所として、①橋台及び橋脚の補強工事と②トンネル内側溝蓋の撤去作業の2現場を実施しました。

パトロールでは、足場や建築物からの「墜落・転落」の防止措置、車両系建設機械との接触防止を中心に、保護具の使用状況、場内の整理・整頓、通路の確保、転倒防止措置、危険の「見える化」を呼び掛け、共通事項として熱中症の予防対策を重点に確認を行いました。



各現場において、令和3年7月、当署管内で熱中症による死亡災害が発生したこと、長崎県内で建設業の災害が多発していること（別添1）、STOP!熱中症クールワークキャンペーン（別添2）を呼び掛け、より一層の災害防止に努めていただくようお願いいたします。



建設業の労働災害発生状況（長崎署管内）

当署管内における令和2年の建設業の労働災害（休業4日以上）は77件と前年より11件増加し、令和3年（6月末）においても前年同期と比較して約3割増加しています。

建設業の労働災害では「墜落・転落」災害の割合が高く、「墜落・転落」災害の多くは以下の状況で発生しています。

- ① 脚立・はしごからの転落
- ② 足場の組立・解体中、手すりの未設置
- ③ 屋根等からの転落
（足場の未設置、墜落制止用器具の未使用）
- ④ 構築物からの転落（手すり等の未設置）

長崎労働局発表
令和3年7月15日

担当 長崎労働局労働基準部健康安全課
健康安全課長 西川 伸之
産業安全専門官 永瀬 仁
(電話) 095-801-0032

建設労働災害多発への緊急要請

長崎労働局管内では、建設業における労働災害が多発しており、今週の13日火曜日、熱中症警戒アラートが発表される中、長崎市内で今季初の熱中症の疑いによる死亡労働災害が発生したことから、建設業労働災害防止協会長崎県支部（以下、「建災防長崎県支部」という。）に対して、長崎労働局長（瀧ヶ平 仁）による緊急要請を下記のとおり行います。

日時：令和3年7月16日（金）13時30分～

場所：長崎労働局 8階会議室（長崎市万才町7-1TBM 長崎ビル）

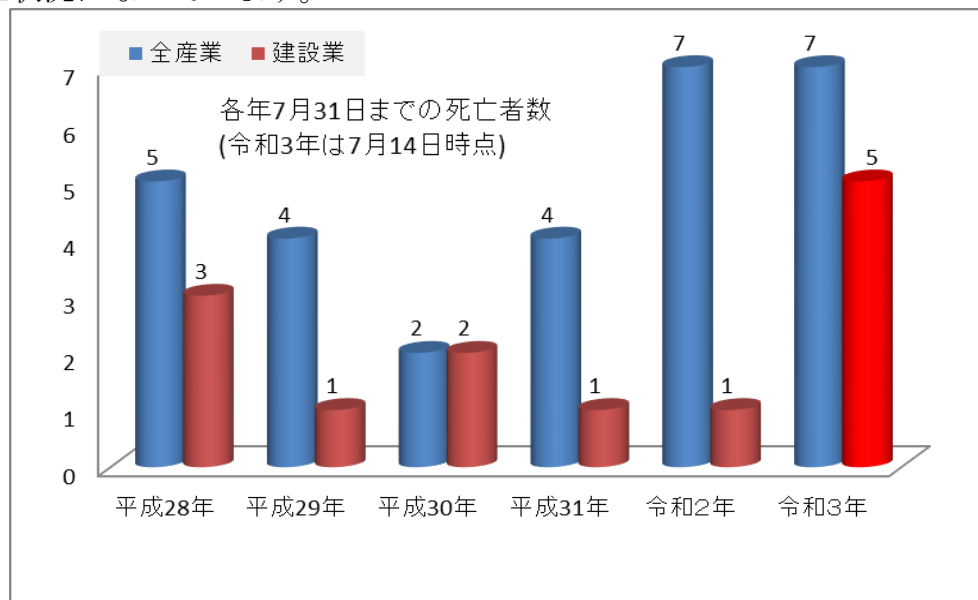
内容：長崎労働局長から建災防長崎県支部長に対する緊急要請

※ 当日、取材を希望される報道機関におかれては、別添用紙にご記入のうえ、7月16日（金）AM11:00までに、長崎労働局健康安全課あてFAX送付(095-801-0031)願います。

【災害発生状況について】

令和3年の建設業における休業4日以上労働災害は98件発生（6月末時点）しており、昨年同期比19件増加（+24.1%）となっています。

また、平成28年以降の建設業における死亡者数は下図のとおりであり、昨年の死者数を大幅に超えた状況になっています。



STOP! 熱中症

令和3年5月～9月

クールワークキャンペーン

— 熱中症予防対策の徹底を図ろう —


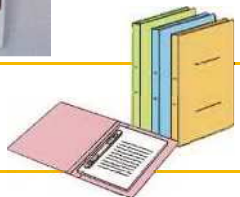
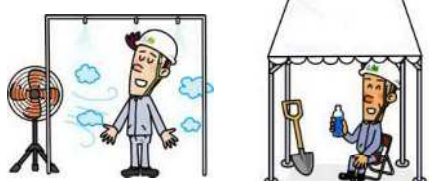




職場における熱中症により、毎年約**20人**が亡くなり、約**1,000人**が4日以上仕事を休んでいます。夏季を中心に「STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン」を展開し、職場での熱中症予防に取り組みましょう!

事業場では、期間ごとの実施事項に重点的に取り組んでください。

●実施期間：令和3年5月1日から9月30日まで（準備期間4月、重点取組期間7月）



確実に実施できているかを確認し、にチェックを入れましょう!

準備期間（4月1日～4月30日）	
<input type="checkbox"/>	WBGT値の把握の準備 JIS規格「JIS B 7922」に適合した WBGT指数計 を準備しましょう。 
<input type="checkbox"/>	作業計画の策定など WBGT値に応じて、作業の中止、休憩時間の確保などができるよう 余裕を持った作業計画 をたてましょう。 
<input type="checkbox"/>	設備対策・休憩場所の確保の検討 簡易な屋根の設置、通風または冷房設備やミストシャワーなどの設置により、 WBGT値を下げる方法 を検討しましょう。また、作業場所の近くに 冷房 を備えた休憩場所や 日陰 などの涼しい休憩場所を確保しましょう。 
<input type="checkbox"/>	服装などの検討 通気性の良い作業着 を準備しておきましょう。 身体を冷却する機能をもつ服 の着用も検討しましょう。 
<input type="checkbox"/>	教育研修の実施 熱中症の防止対策について、 教育 を行いましょう。 
<input type="checkbox"/>	労働衛生管理体制の確立 衛生管理者 などを中心に、事業場としての 管理体制 を整え、必要なら 熱中症予防管理者の選任 も行いましょう。 
<input type="checkbox"/>	緊急時の措置の確認 体調不良時に搬送する病院や緊急時の対応について確認を行い、周知しましょう。 

【主催】厚生労働省、中央労働災害防止協会、建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会、港湾貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会、一般社団法人日本労働安全衛生コンサルタント会、一般社団法人全国警備業協会 【協賛】公益社団法人日本保安用品協会、一般社団法人日本電気計測器工業会 【後援】関係省庁（予定）

キャンペーン期間（5月1日～9月30日）

STEP 1

□ WBGT値の把握











JIS 規格に適合したWBGT指数計でWBGT値を測りましょう。



WBGT指数計の例

STEP 2

準備期間中に検討した事項を確実に実施するとともに、測定したWBGT値に応じて次の対策を取りましょう。

<input type="checkbox"/>	WBGT値を下げるための設備の設置	準備期間に検討した設備、休憩場所を設置しましょう。	
<input type="checkbox"/>	休憩場所の整備	休憩場所には水、冷たいおしぼり、シャワー等や飲料水、塩飴などを設置しましょう。	
<input type="checkbox"/>	通気性の良い服装など	準備期間に検討した通気性の良い服装なども着用しましょう。	
<input type="checkbox"/>	作業時間の短縮	WBGT値が高いときは、 単独作業を控え 、WBGT値に応じて 作業の中止 、 こまめに休憩をとる などの工夫をしましょう。	
<input type="checkbox"/>	熱への順化	暑さに慣れるまでの間は 十分に休憩を取り 、 1週間程度かけて徐々に身体を慣らし ましょう。特に、 入職直後 や 夏季休暇明け の方は注意が必要です！	
<input type="checkbox"/>	水分・塩分の摂取	のどが渇いていなくても 定期的に水分・塩分 を取りましょう。	
<input type="checkbox"/>	プレクーリング	休憩時間にも体温を下げる工夫をしましょう。	
<input type="checkbox"/>	健康診断結果に基づく措置	①糖尿病、②高血圧症、③心疾患、④腎不全、⑤精神・神経関係の疾患、⑥広範囲の皮膚疾患、⑦感冒、⑧下痢 などがあると熱中症にかかりやすくなります。医師の意見をきいて人員配置を行いましょう。	
<input type="checkbox"/>	日常の健康管理など	前日のお酒の飲みすぎはないか、寝不足ではないか、当日は朝食をきちんととったか、管理者は確認しましょう。熱中症の具体的症状について説明し、早く気付くことができるようにしましょう。	
<input type="checkbox"/>	労働者の健康状態の確認	作業中は管理者はもちろん、作業員同士お互いの健康状態をよく確認しましょう。	

STEP 3

熱中症予防管理者等は、WBGT値を確認し、巡視などにより、次の事項を確認しましょう。

- WBGT値の低減対策は実施されているか
- 各労働者が暑さに慣れているか
- 各労働者は水分や塩分をきちんと取っているか
- 各労働者の体調は問題ないか
- 作業の中止や中断をさせなくてよいか

□ 異常時の措置

～少しでも異常を感じたら～

- ・ **いったん作業を離れる**
- ・ **病院へ運ぶ、または救急車を呼ぶ**
- ・ **病院へ運ぶまでは一人きりにしない**

重点取組期間（7月1日～7月31日）

- 実施した対策の効果を再確認し、必要に応じ追加対策を行いましょう。
- 特に梅雨明け直後は、WBGT値に応じて、作業の中断、短縮、休憩時間の確保を徹底しましょう。
- 水分、塩分を積極的に取り**ましょう。
- 各自が、睡眠不足、体調不良、前日の飲みすぎに注意し、当日の朝食はきちんと取りましょう。
- 期間中は熱中症のリスクが高まっていることを含め、重点的に教育を行いましょう。
- 少しでも異常を認めたときは、ためらうことなく、病院に搬送**しましょう。

